

<実例報告>

## 「漢方由来食品による肝炎予防と肝障害回避の可能性探索実験」

第16回 日本補完代替医療学会学術集会

機能性食品とエイジングにおいて

2013年11月30日~12月1日

謝 心範<sup>1)</sup>、山本 理<sup>2)</sup>、原田 雅義<sup>3)</sup>、マロッタ・F<sup>4)</sup>

1) 株式会社協通事業、 2) 漢方養生研究所

3) 医療法人東明会 原田病院、 4) イタリア ミラン大学

### 【目的】

代表的な生活習慣病として糖尿病、心臓病、脳卒中、脂質異常、高血圧、肥満や歯周病などが挙げられているが、近年の高齢化社会の特徴として見られるのは、病気になった結果、治療目的で様々な医薬品を服用することが生活習慣の一部となり、これら医薬品の効果を得ると同時に多くの副作用問題も大きくなってきた。このような薬剤投与による「副作用」も生活習慣病の重要な問題の一つであると考え注目し、また生活習慣病において食事の管理も重要であることから「漢方養生食品」が薬剤の副作用を予防、改善できるか検討してきた。今回は医薬品の日常による肝臓への負担に着目し、ラットを使った四塩化炭素惹起肝炎モデルにおける漢方養生食品である「漢方養生食品YHK」の効果を検討した。

### 【方法】

ウイスター系ラットを3群に分けた。①四塩化炭素投与群（2回/日、皮下）、②四塩化炭素+YHK投与群（2回/日、皮下）、③四塩化炭素+YHK投与群（2回/日、皮下、YHKは1週間後から開始）。

トランスアミナーゼ量、Y蛋白量、グルタチオン量の変化を観察した。

### 【結果】

養生片仔癯の研究内容：

<実例報告>

対照群と比較し、A群では肝臓のGSHとGSSGが著しく低下し、トランスアミナーゼの増加とともに肝臓の湿重量も低下した(p<0.001)。一方、B群及びC群ではトランスアミナーゼの軽度の上昇と肝臓壊死炎症値(p<0.005 vs. A)を示した。A群にはY蛋白とGST活性の30%以上の減少(p<0.001 vs 対照群)が見られたが「YHK」で正常値に戻った(p<0.005 vs. A)。肝細胞培養ではわずか10g/mLの「YHK」でシリマリン100ug/mLと同程度にCCl<sub>4</sub>肝細胞損傷を緩和した(p<0.05)。

【結論】

肝臓障害の動物モデルにおいて漢方養生食品であるYHKが肝細胞の保護作用を示したことからヒトに於いても、その肝細胞の保護作用が期待される。